

『江田島“突破,,塾”～限界突破・難関突破～』実施報告書

1、概要

国立江田島青少年交流の家では、令和3年度教育事業として、中学校部活動（1・2年生）を対象に「江田島“突破,,塾”～限界突破・難関突破～」を開催しました。『江田島湾縦断カッター』と題して通常の学校利用時には行くことのできない特別なコース（交流の家カッター艇庫から江田島湾を縦断して対岸の長瀬海岸をめざす）を漕艇し、往復で約9kmの難関を仲間と共に突破しました。

- 趣旨 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い部活動が制限される中学生に、非日常の場での体験を通して、諦めない心や仲間との協力・心の結びつきの大切さ、目標の達成感を感じることで精神力や部の団結力を向上させ、チーム力の底上げを図る。
- 期日 令和3年11月23日（火）・27日（土）
- 参加人数 11月23日・・・19名（サッカー部）、27日・・・19名（陸上競技部）

2、活動内容

時刻	江田島湾縦断カッター
8:30	受付開始
9:00	開会・事前動画
9:30	艇庫へ移動
10:15	出艇
12:00	長瀬海岸 着 昼食休憩（弁当）
12:45	長瀬海岸 発
14:45	達着・移動 着替え
15:15	アンケート記入 閉会
15:40	解散



海田町立海田中学校 サッカー部



広島市立五日市観音中学校 陸上競技部

3、参加者の声



○互いにサポートし合い、息を合わせて漕ぐことで目的地まで到着することができた。
○みんなで諦めなかったらどんな苦しいことも乗り越えられることが分かった。
○周りの人に感謝したい。



○仲間と声を掛け合い、仲間がいたから辛くても諦めずに最後まで漕ぐことができた。
○普段はあまり声掛けをすることがなかったが、今回声に出してすることで大切なことだと気づいた。

○今まで感じたことのない達成感を味わえた。
○諦めずに自分がどこまでできるかが分かった。
○カッターを通して学んだことは部活動にも生かせることだと分かった。



○辛い時もあったが、仲間が一生懸命に取り組んでいる姿を見て、自分も頑張り、最後までやり遂げられて本当に良かった。
○課題を解決するための配慮がありがたかった。



○方向づけてレールに乗せなくなるが、自分も待ってみようと思う。
○社会を生き抜く上で必要なことを学んでいた。
○日頃は気づけないような事を生徒が気づけていた。



○団結することの力の大きさが分かった。これから男女拘わらず接していこうと思った。
○他学年の子ども声を掛け合ってやり遂げることができて嬉しかった。